

第3回学校運営協議会【記録】

日時 令和7年2月5日(水) 10:00～12:00

場所 札幌聾学校 多目的室

【委員】

氏 名	役 職	出欠状況
渥 美 建 治	北区北地区民生委員・児童委員協議会副会長	出席
小 泉 詔 信	北24条商店街振興組合理事長	出席
杉 本 五 郎	北海道札幌聾学校同窓会会長	欠席
只 石 亜由美	北海道札幌聾学校 PTA 会長	出席
渋谷 雄 幸	公益社団法人札幌聴覚障害者協会理事長	出席
高 野 賢 一	札幌医科大学医学部教授	欠席
船 山 大 介	放課後デイサービスふくろう管理者	出席
佐 藤 信太郎	北海道警察札幌方面北警察署生活安全課長	出席
佐 賀 聡	北海道札幌北高等学校長	欠席
四 木 定 宏	北海道札幌聾学校	出席

【学校評価に基づく協議】 協議進行：船山委員長

（１）「目指す子どもの姿」の達成に向けた教育活動について

- ・外部との交流も含めて、聾者との交流も継続して行い、言葉を身に付け、聾教育の専門性を深めてほしい。その中で体験や経験に基づく学習が行われていってほしい。
- ・外に出ていろんな人と触れ合うことで教養を深めてほしい。保護者の評価が高いことは素晴らしいことだと感じる。
- ・子どもたちはよく頑張り、また、先生方も一生懸命教えていると感じる。
- ・先生方の考えを教育活動に反映させることで「目指す姿」に近づくと感じる。
- ・先生方がまとめ、子どもが伸び伸びとしている、課題が明確になったことを感じる。地域人材の活用や、交流の場の提供について検討したい。
- ・体験指導の充実という点では、地域を巻き込んで充実させてほしい。
- ・保護者から高い評価は教職員の心理的安定性にもつながる。しっかりと評価されているので自信をもってほしい。

（２）「目指す学校の姿」の達成に向けた組織づくりや地域との連携について

- ・地域の小学校と連携を取ることで一緒に学べる可能性があるのではないか。聾者との交流では、同世代の交流だけでなく、卒業生の体験談を聞く機会などを設けてはどうか。PTAとしても図書館ボランティアは可能ではないかと考える。
- ・北24条商店街では、アイスクャンドル点灯式、音楽祭、お祭り、月一度の清掃活動、区役所周辺の花壇整備などを行っている。参加して子どもの主体性、自主性を伸ばしてほしい。また、商店街見学などの学習を受け入れることも可能なので検討してほしい。
- ・アイディアを実現するために誰がどのように動くのかが大事だと思う。これからは具体的な進め方が必要。毎年アイディアは出ているが具体化する動きが見えないので、具体的に動き出すと良い。そのために協力したい。
- ・学校教育の中で、ICTを先生方でどのような場面で、誰に対して、どのように使うのかを示していくための研究・研修、共有することが大事だと思う。
- ・地域人材の活用という点で、函館聾学校の取組（ボランティアバンク）も参考になる。

(3) 「目指す教職員の姿」の達成に向けた資質能力の向上について

- 先生方には少し自信を持って授業をしてほしい。
- 聾学校における聾重複児の学習カリキュラムを充実させてほしい。
- 地域の人々の力も借りて、地域社会を学ぶ教育も必要だと思う。
- ICT を活用していくことは今後必須になる。それに伴い、ICT を活用したコミュニケーション力を身に付けていく必要があると思う。
- 先生方の自己評価が低いという点において、何が足りないと思っているのか分からないが、自分で習得しようと思っていることが、学校・保護者のニーズに合っているのかどうかを考える必要があると思う。
- 本校だけでなく、全国的な課題として、教員数の不足や休職者が増加している。そのことにより、教員になることに不安感がある学生も増えてきていることも分かってきている。先生個々の努力だけでは問題解決は難しいと感じる。根本的な解決が必要であり、先生の時間に余裕を持たせる、余裕が生まれれば自身の資質向上に向けて時間を作ることができると感じる。そのような状況の中で本校の先生方は頑張り、チーム力で対応していると理解している。
- 専門性の一つとして、「聞こえにくいということはどういうことなのか」という基本を理解していただくだけでも、最初のステップとしては十分な専門性と言えると思う。